

X. パネルディスカッション:「スマート時代のプラットフォームの課題を考える」

(1) 登壇者

モデレータ: 南 政樹 氏、コーディネータ: 村井 純 氏、特別ゲスト: 伊藤穰一 氏、
パネリスト: 元橋圭哉 氏、舟橋洋介 氏、田中邦裕 氏、庄司昌彦 氏

(2) 討論内容の詳細

<村井先生からゲスト出演していただいた伊藤先生へ、第一部講演内容の概要説明>

プラットフォームという話題でプレゼンをしてもらってきた。スマート時代、デジタルでコンピュータが計算できて、そういう時代にプラットフォームとは 一方でその上でいろんな人が大活躍して、新しいものがどんどん出てくる。その全体像を見て、課題を考えようとしている。

遠藤さんの話はデバイス、ガジェットがどんどん生まれてくる。昔からデジタルデバイスはあるが、ネットにつながるとインパクトをもってくる。

元橋さんは4K, 8Kの標準化を含めTVに取り組みされている。8kになるととんでもない量のコンテンツが流れるとネットワーク屋はどう扱えばいいのか。 デジタル放送になって時報をやめた。ああいうことをやってもよいのですか。遅延というのがあって再送信して届けばよいやとインターネット屋は甘く考えていた。放送は番組もあり、時報にこだわっていると思うが、ここにいろんなイシューをはらんでいる。大量になってくるとどこにデータを置いてどうやって配るのか技術も変わってくるのではないかと。本当によいコンテンツが流れていく解像度の高いものが移動していくのは放送が主導しているわけであるが、キャリアしたり動かしている人はどうしたらよいのか。

舟橋さんはW3Cで活躍されている。基がBMLの超専門家。WEBアーキテクチャは大きなプラットフォームになっている。何でもWEBだろう。電子出版での日本語の扱いや、Eメールは何語でやればよいのか、またビットマップが出てきたときその表示をどうするか舟橋さんが取り組んでいる。何もかもWEBプラットフォームに集約し、標準化されれば産業化できる。まさに技術のプラットフォーム。

田中さんはデータセンタを北海道に造った。エネルギーのコストが俄然有利。地球の使い方が違ってくる。処理コストが違ってくる。データの移動のコストが変わらないのなら地球全体でどこで処理してもよいということになる。

庄司さんの意見ではデータは国境があり、ここを超えてはいけなとか、セキュリティは水際で抑えろとか PRISMのように揚がってきたファイバを横からみてシャットダウンしたりする。

9. 11のときアメリカの政府の人からUSをアイソレートするように、インターネットでもアイソレートできますかと質問された。技術的に不可能だから考えないほうがよいと応えたが、これができるようになってきている。データの環境はシームレスになってきたがその扱いについてセキュリティは国と国、ものすごくセンシティブになってきた。プラットフォームの課題をざっくりとしているが口火としてサマライズした。

<標準化(オープン)とプラットフォーム形成の関係>

(伊藤氏)

ちょっと前のインターネットは懐かしい。村井先生を中心にいろいろ議論して決めてきた。アイキャンという組織に皆集まって議論してきた。今でも下のレイヤ、DNSなどはそういうこともある。

イノベーションのコストが下がり、設備投資をしなくてもできてしまう。そうすると Facebook、Yahoo、google 等はW3Cに行かなくてもできてしまう。私もモジラを担当しているが W3C へは行かなくてもよい。ブラウザは3社なので直接話せばできてしまう。大企業でなくてもできてしまう。大企業はそういう場が得意。

ベンチャは忙しいしお金がないし勝手にやっている。リンクedinとかフェイスブックは昔のニフティがウォールガーデンで標準化の上にクローズドを作ってやっていたようにやっている。アメリカの携帯もローミングできなくても作ってします。

ドバイでのWTOを見ていると、会議ではソ連、中国、アメリカが一緒になって、セキュリティや国内の問題なのだが、クローズしようとしている。クローズしようというエネルギーはある。1つは複雑になってオープンが必要と感じていない人がいる。ハードもシンセン(中国)で安く作れる。グローバルでオープンなプラットフォームを意識していない。標準化団体や標準化を議論する人がインパクトをかけられない事象がおきている。いいほうへ行くとよいが。スパムが減ったのは法律やポリシからでなくてマーケットが直してくれた。プライバシーやセキュリティがそういう風になるといいが。そうならないのも多い。というのがちよつと心配で。

4, 8Kのようにコストがかかるものは標準化できてちゃんとやっていく。ベンチャ業界やモバイル業界はマニファクチャやサプライチェーンもコストがかからなくなってきているのでハードウェアの標準化についても android を使うかも知れないがカオスになってきて以前よりグチャグチャの状態になってきた。どうなんだろう。

(村井氏)

そこで終わらないで欲しい。かなり自律神経系でバイオ系のそれしきの感じがする。何かがあって対応する力があるとそれが新しいプラットフォームができてくる。

(伊藤氏)

エンジニアリングというかエンジニアが作ってきた。今の状態はバイオロジ。バイオロジストがシステムをみてどこをいじったらよくなるかはよくわからないが。北野宏明さんのようなシステムバイオリストが分析してマーケットやポリシをいじる。免疫に近いセキュリティ対策をとらないと対策とならないし、そしてプライバシーでも法律やポリシも大事だが、全体的にシステムをどうしていくか複雑系のアプローチが必要。

(村井氏)

皆さんは守備範囲も多岐に渡り、何かあった時にはそれに対応していくバイオ的動きがあると思いますが誰か。

(田中氏)

レイヤがキーワード。単一のレイヤでは勝負できないということがネックだと思う。ネットワークやサーバのコミュニティがあってそれで解決していたがいまやそれでは解決できない。また、社内の中でも複数のレイヤをまとめたほうが効率がよいということが起きている。水平分割より垂直統合が楽。ということが起きている。グーグルやフェイスブックはそうだと思う。新規参入が難しくなる。レイヤという横の最適と社内での垂直統合という全体最適という軸がありオープンとクローズの戦いが激しくなるのでは。

(伊藤氏)

そのとおりに思うが、歴史を振り返るとクローズが最適で、あとからオープンになったことがある。AOLやニフティ等。ユーザエクスペリエンスをデザインするのが大事。Facebook、グリーンフィン、アップルも最初クローズドで中長期的にはオープンを考えているのでは。昔AOL、ニフティがオープンになるとは思われなかったのが、オープンになった。携帯もアップルが先行してアンドロイドがきて、オープンになるか、これは分からないが。なにが問題化はだんだんモノポリになってきてひっくり返せない。ただ、ブラウザのモノポリのIEに対しファイアフォックスが出てきている。ウインドウズもモノポリに近かったので減っていく。いずれもモノポリは減んでいく。歴史を振り返ると楽観的になるが、今 Facebook とかその辺の人たちにはそうは 感じられない。クリエイティブコモンズの立場で行ったが全く話す気がない。お客を大事に思

って抱え込んでいる。大事にするためには外部の変なものも混ぜたくない。完全なコントロールが欲しい。グーグルもそっちのほうへ移っていった。

(村井氏)

永遠のモノポリはない。意地悪でつぶすとかモグラたたきはよくないが。元橋さんTVとインターネット仲良くなかったが今は仲良くなってきたとのこと。

(元橋氏)

標準化の意味はある。メリット・デメリットとがあり、なんのために標準化が問われる。フジの番組とNHKの番組が同じTV端末で見られないといけないし、ソニーと東芝でNHKの番組が見られないのはまずい。標準化することが利便性を増すことになるので許されるということになる。標準化は大企業や資本力のあるところがルールメイクしている。時間がかかるし、自己目的化する。そのことでサービス開始する時期が遅くなることはできるだけ避けた方がよい。ベンチャの人が良かれと出してくるものには新しい文化に通じるものがある。クリエイティブしたり産業をつくりだしたりする上で標準化は手段であり、時間軸の要素を考え、参加プレイヤーの中で標準化したほうがよいか、ほっといていろんな人が作り出した方がよいかという分野が自ずとある。

(村井氏)

グーグルは縦で閉じているという指摘が田中さんからあった。標準化はオープン化を含んでいる。ITは横に繋げる使命を負わされてきた。オープンでは権利を主張できないので先へ行くことになる。オープンなプラットフォームを作るという考えは共通なものはこちらまで出してしまうことになる。グーグルやアマゾンも力をもって自分に都合のよい標準を作っている時間があって後に皆の標準になっていく。

(伊藤氏)

気をつけなければいけないのは、インターネットのIETFはユーザのため、ユーザたちが作った。電話会社が国際間の課金制度の標準化を決めたが、メチャ高い。SIPも電話会社が入ってつくったが利便性が悪く、結局スカイプにもって行かれた。インターネットの標準化は誰でも参加できて強制的に競争ができる。競争的に価格破壊が起こる。

自分たちの利益を守る標準化は電子出版にもあるし、著作権がらみもある。塊を守る標準化とオープンな標準化。オープンな標準化は難しい。100万円出せば接続するとか、見てもよいというオープン化もある。IETFのように競争が入っていないと。IETFは綺麗。誰でも参加できて競争する人もいるインターネット的標準化が標準化と思う。

(村井氏)

オープンだと健全な競争が生まれる。ビジネスの価値は減る。うまみは無くなる。次に行く進化につながる。そういった意味のオープンなプラットフォームはデータのオープン化とシンクロしているのか。庄司さん如何。

(庄司氏)

シンクロしている。プラットフォームを作ることは次に何をするかを問うこと。プラットフォームをつくる技術はちゃんとあって次に何をするか。データフォーマットもあるが、次いそれを使って何をするかを忘れてはいけない。そこから先端的なニーズを見つけてプラットフォームに取り込む。プラットフォームをとるぞということに集中するとユーザを置き忘れることになる。

(村井氏)

生物的な進化。滅びなければいいけど、ということでいろんな事に出会っていくということかな。標準化IETFでは誰でも参加できた。WEBの標準化はしっかりした組織になっている。テンバナスリーは強いリーダーシップで標準化の議論に影響を与えているのも面白い。舟橋さん

(舟橋氏)

W3Cも2年前からコミュニティグループという仕組みを作っている。メンバーフィも高い。一番高いのではない。サロンになっている。誰でもWEBをクリックすればW3Cのインフラのもとにディスカッションできる場を作った。こういうのを設けないと標準化団体として存在しえなくなる。大きなテーマとなっている。グーグルなどはWGをスキップしてどんどんやっている。グーグルTVのとき、標準化の議長として話したが、録画デバイスを作ってグーグルの検索システムと合わせる。そのプロトコルについて、書いている言語はDLNAなのかと聞いたら、自分らでどんどん書いてオールスクラッチで作成した。オープンにソースもだすからそれでいいでしょうということだった。そういうグループともコミュニケーションやコンセンサスをとっていくことも大事。

W3Cを支えているのはWEBデベロッパたちで、分散的に世界中にネットワークで参加している人達だった。HTML4のときXHTML2.1にしたが、きれいなだけで役に立たなかった。だれも付いてこなかった。WEBデベロッパの慣性の法則ということ。新しい機能をつけるのをW3Cの外で作ってやった。こういうのはWEBアドミンの人が居たとき。今はWikkiとかFacebook上で何かすることがWebデベロッパであることになってきている。JavaScriptは機械語になってきている。そういう人にはWEB標準はない。プラットフォームはFacebookやアマゾンのAPIだったりする。もちろんインフラになっているWEB技術は大事だけれども握っているのは上の新しいワールドガーデンである。上に乗っかっているだけ。昔あったWEBデベロッパという押さえが無くなった。未来の危険を感じた。

(村井氏)

でもそれは回転していくのではないのか。下のレイヤが上のレイヤに隠れていく。下のレイヤ作れるやつはいなくなっちゃった、システムプログラマがいらないね。という話もあった。あらゆるところにそういう要素がある。データセンタはバーチャルマシンで動くし元の定義から違う話が起きている。昔イーサにブロードキャストがあった。今はない。最初のイーサは今はなく、今はスイッチの中に入って仮想的にイーサのフリをしてスイッチの中で考えられている。イーザの概念は、ぱあっと浮いている。支える技術をやっている人もいるが、見えるところでやりたいことをやる。マーケットから来るし、作るやつはやる。

(田中氏)

キーワードはイノベーションと思う。舟橋さんから技術的に優れているものが使われないという話があった。ウィキペディアでイノベーションを調べたら技術的なことではなく技術が社会に使われて世の中をかえること。どうしても日本は発明だけに注力し、使われないとイノベーションとはいえないのではないか。標準化の中で伊藤さん共感した。標準化には2つある。1つは既存市場を守るもの。これはイノベーションにつながらない。2つ目は市場に広めるものの標準化。コモディティ化する。自分はコモディティ化は好き。標準化してコモディティ化が図られるのがよい。オープンコンピュータの中でFacebookがデータセンタテクノロジーの中で言っている。外に出してオープン化して多くの人が使えば安価にできる。世の中に出て人の役に立つことがイノベーションである。ひとつ言わせてください。直流電源化をNTTデータは10年、超伝導は住金が30年研究してきている。技術はすぐれているが使われないからイノベーションにならなかった。我々は標準化することなく自社内で実用化しようとした。標準化はベンチャ企業には遅すぎる。先に作って標準化され、コモディティ化されて安価に導入されることができると。

(村井氏)

全くそうだと思う。標準化にはアイデアだけ出しておくというのもあるが、直流の話、データセンタも直流。地震のときの話題。携帯は皆充電する。基地局30分のバッテリー充電。ケータイの位置情報によっていろいろデータが取れたがデータ解析のひとつに、データが30分後に少なくなったので地震の影響は30分までなどという声もでた。これは基地局のバッテリーの問題でデータが取れなかっただけ。

UPSはAC-inのAC-out ソーラはDC-inのAC-out 損失も出てくる。理想はDC-in,DC-out がいいとすると直流伝送ってどうすればいいの。

TVのショーがあってRJ45の大きなおもちゃでTVディスプレイを展示しているところがあった。TV事業者がイーサでTVをつなぎましょう。自分がやるべきことだったので感動した。デジタルTVがイーサで、TCP/IPが必要条件だとするとそれに地上波は送れるかというサービスも起こってくる。すると28Mが通らないとTVは無理と電気屋が言ってくれる。電気屋がインターネットをバンドルしていた。パワーオーバーイーサに付いて。イーサ、TV、自動車、家電がすべてイーサにつながり直流給電になる。SFCではバッテリーサイティのデザインをやっている。60Wだと40インチが見れる。もっと直流の話もしたいがTVに戻る。映像トラフィックが増えると配信が大変。リアルに送るプロトコルなどインターネットで映像きちんと送ることに苦労した。南さん何か。

(南氏)

CDN事業をやっている。プロトコルのバイオレーションを平気な顔してやっています。某最大手のCDN会社でもHサイト(コンテンツ配信サイト)まではTCPを使わずUDPで送っている。4k、8kを地上波の帯域の中に入れられるのかどうか。NW、放送、ハイブリッドの部分が大事になる。そのなかでも連続メディア・ストリーミングを配信する技術を新しく考えていかねばならないと思っている。

(村井氏)

CDNについて90年SFCに来た@ホームのエンジニアがルーティングディーバ(ルーティングの女神)として講演した。ケーブルTVの上にインターネットで映像を配信する。Push data to customer あの手この手の世界。映像をインターネットで見るのは無理な時代。あらかじめ送っておけ、遅延無くためてできるだろうということだった。あの手この手でやっている。こういう技術は他にもあってIPアドレスは1個。DNSサーバーを複数のサーバーで動かす。早く送る、どこが落ちても繋げるとしてやった。この技術はセキュリティで役に立った。どこかやられても回復できた。あの手この手で考えていく。

なりふり構わず直そうとする。この要求条件を満足するために、条件を付けた人のみアクセスを許しましょうという方法とその要求があればバイオレーションがあるけれども解決してなんとなくうまく行くというのがある。インターネットは後のほうだと思う。

(南氏)

本日は多岐にわたるエリアをカバーしています。何でもかまわないので会場の方から言っておきたいこと、うそだろと思うことなど

<決済や認証の重要性はスマート時代でもプラットフォームの役割として変わらないか>

(会場から)

2005年総務省でプラットフォームの提言がまとめられました。このとき、決済とか認証とかが大きなテーマでした。現在も変わらないと思うがスマート時代ではどう変わっていくのでしょうか。

(伊藤氏)

いいソリューションはできていない。クラウドになったので集約されタイムスタンプとか昔夢だったものができてきている。一番馬力があるのがアメリカの税務局だと思う。脱税防止のために力を入れている。

2013年にどの国の銀行もアメリカ人のお金が入っているか、またその出し入れが全世界で技術的にセキュアにアメリカに出すかどうか。アメリカの税務署のお金を追跡するエネルギーがすごいので、それも相手国に対するエネルギーもすごい。認証とか暗号をやっているものがうまくタックスヘイブンとかアメリカから逃げられないか等なんか面白ことが出来ないかオタク的な人が考えている。ビットコインってそういう要素がある。

でもこれはありえない。きちっとアメリカに認証されない取引の可能性はゼロ。そこから考えないとだめ。ブライシングニチャとかお金のプライバシーがないと反対運動は起こらない。

如何に簡単にアメリカ政府に認証できるデジタルキャッシュを求めていく。そこを理解したうえで新しいデジタルキャッシュのソリューション、例えばオーデットの未来とか、今マーケットが壊れているが、ファイナンスシステムと認証システムと決済のシステムができてきている。

ファイナンスシステムを知っている人はグチャグチャが儲かるので、いまファイナンスシステムの教科書はない。インサイダーで技術の分かる人が儲かる。その人たちがシステム構築してうまく動かすインセンティブがないことが1つ問題である。

(舟橋氏)

今の決済の話。マイクロペイメント。シリコンバレーのベンチャ。スタートアップレベルでは激戦区になる。プラットフォームと考えるとペイバルが先人を切っていてペイメントという機能だけに特化しているいろいろな取引に機能提供。全てはやらない。モジュールベースのプラットフォームといえる。コンテンツ、オークションその他いろいろな人に使ってください。ペイメントということプラットフォームと考えると面白い。スタートアップに使う。クレジットカード。スターバックスへ行くとスマホのGPSで存在が証明されるのでスマホのアカウントから入り位置だけでペイメントされる。いろいろな可能性がある。

(南氏)

クリスマスガードのインフラをベースに使った決済システムがある。認証にしてもIDをオープン化しようという話もある。リソースを提供する田中さんでは認証、決済のプラットフォームを統一しようなんて動きはありますか。

(田中氏)

プラットフォーム化する中でサーバーだけでなく決済、認証、SSLの発行などレイヤを上げることはある。3rdパーティのペイメントは安く、手軽になってきた。どこかの陣営が作るというよりベンチャで雨後のたけのこのように出てくる。

(村井氏)

相当あるのでは

(伊藤氏)

自分の会社でなんだけど本当のプラットフォームとしてデジタルガレージでイーコンテキストとベリトランスが合併し1社で独占している。TRの数による。中、韓1社ずつがバックボーンを担当。その上でベンチャはラストマイルの決済をやっている。地味な銀行のネットینگみたいな仕組みでやっている。昔E-cashのサーバを怪しいところに立てEキャッシュの音楽サイトを作った。ローソンが興味を示し、一緒にやって大きくなって地味になっていった。

(村井氏)

コストは下がってきた。質問に対しては決済についてはかなりの主戦場となってきた。総務省のプランとの関係は分からないが決済領域は発展している。クラウド時代になったスマホをもっている。設備投資が楽になった。それで広がる。認証では、個人認証やマイナンバーも通って税金のためかは分からないがモチベーションがあればそういう技術は広がる土壌がある。

ひとつのモチベーションは健康とか医療。この国ではこの分野はヘビーであって、これをきちんと考えないといけない。そのベースに個人認証とか病院間のデータのプロテクションがある。これがコストが下がるとよい。医療関係のデータが安全にクラウド化されると医療コストがうんと下がる。社会コストが下がる。そうするとこの国はドラスティックに変わる。そうでないとこの国はつぶれる。

地震のとき、いろんなデータがオンライン化されていないので何もできないみたいな話がいろんなところで起こっていて、こういう時にIDのデジタル化してなくてもよかったんでしょうか。と聞いたら、いややっぱりやっとなかないといけなかったと言っていた。今は相当やる気になっていると思っていいいんでしょうね。

庄司さん

(庄司氏)

やる気になっていると思います。医療はE-ジャパンの時から重要テーマであり続けています。マイナンバーが入り、レセプトの電子化も進んできている。現場もデジタル化が進んでいる。条件はよくなっている。財政危機でもあり条件はそろってきている。プラットフォーム間の競争になると思うのは国の医療費をなんとかしようとして健康情報をコントロールしようというより、別次元でサービスが登場し、それが国境を越えて一気に健康データ認証の基盤になることがいずれあるのではないかと。グーグル、ヤフーやフェイスブックかも知れない別のプレーヤーかもしれない。医療とはちょっとずれた世界を見据えたニーズをとらえた人がデータとその認証基盤を獲得していくのではないかと。

<グローバルと国境観>

(村井氏)

その議論は別途したかったこと。インターネットを作ったとき、グローバルということで国境意識は無かった。TVの再送信の議論の時地域で止まった。サテライト放送のインターネットを行った時、電波は隣国へ行っては行けないといわれた。IPであり、放送ではないのと思った。やはり慎重ならなければならないとなった。

どういうコンテンツはどこで、どこまで配信するの、地域的にライセンスや権利を意識するようになった。ナショナルフィロソフィがアプライされる。医療のルールは国境を越えるということが難しく、グローバルスペースを作っているインターネットがナショナルスペースを考えている課題やアプリケーションと、どういう風にして結びつくのかというのがある種のプラットフォーム論となるのだが。どうです国境観など。

(伊藤氏)

逆に戻っている事例が1個ある。アルジャジーラが湾岸戦争からアラブの春でアメリカ内で変わった。アラブの春でネットが伸びた。ブッシュの指導でCATVは一切アルジャディーラを取り上げないことにした。彼はカランTVを買収する。契約書にネットと配信はしないと書いてあった。突然インターネットでアルジャジーラがアメリカで見れなくなりました。アメリカのケーブルに入るためにはインターネットを捨てなければいけない。事前に知っていたかは不明だが今すごいショック。インターネットのユーザがガツと増えていた。それがプツツとなくなってCATVにインターネットを売り込んでいる。

ネットでIPをブロックできるし、中国でもぜんぜん違うし、UAEはメチャクチャ厳しい。ブロックしているし、ますますそっちのほうへ行くと思う。僕も最初は国境はなくなると思っていた。一部なくなりつつあるが。

CDN みたいのが出てくると、思っているインターネットと実際のインターネットは違っている。インターネットはセキュリティのためもあるがバックアップもあるから NSA の話ではないけれど国境の力が瞬間強いのではないか。

(村井)

瞬間強いとは思いますが、どうするのかね。

(伊藤氏)

中国が外に向いている軍やセキュリティコストより、うちに向いているコストの方が大きい。中国がスペシャルネットワーク作りのお金がとてつもなく大きい。シリアもお金をかけて維持している。戦争の歴史を見ると守るコストが低い、お城が出来た時代は、戦争は減る。攻撃のツールのコストが減ると戦争は増えてくる。波があるが。マシンガンというのはディフェンスのマシン、ミサイルもディフェンス。アタックするコストが高いとアタックしないわけ。今はブロックしたり、攻撃したりするコストがまだペイする。ペイしなくなったりコストパフォーマンスが変わると何ができるのか、できないのが変わってくる。アーキテクチャががらりと変わらないとプライオリティとセキュリティに関してだめになる。次のバージョンは遺伝子とか免疫のシステムのような自立システムになる。それはコントロールしづらいのではないかと。勝手に敵を見つけやっつける奴が出てこないといけなくて、コントロールコストは上がるし、アタックコストも上がってコストパフォーマンスが大事となる。

(村井氏)

セキュリティの議論は攻めるコストと守りコストのバランスというのは今までも議論されてきた。逆にそれを誘導するとか。そういうことが大事だ。次のフロアから。

<TVの混合表示と通信放送の融合における日本の遅れ>

(会場から)

通信・TV の融合が進んでいる。大変参考になりました。最近 TV の混合表示禁止の動きありと聞いている。融合はそんなにスムーズに進んでいないのではないかと感じています。その辺の見通しとアップルが TV に参入して攻めてきたら日本の放送事業は太刀打ちできるのか見通しを聞きたい。

(村井氏)

意見があるが私は楽観的なので別の人から。技術面から舟橋さん

(舟橋氏)

放送通信混合表示の話。経緯として地上波のワンゼグサービスが規格化される時、携帯電話のブラウザに表示する機能があり、それとTV画面をどういう形にするかの運用ルールの議論があった。何が社会的メリットで、何が社会的リスクかトータルのバランスで時によって変わっていくと思う。現時点では放送波の報道、品質、多数の意見を獲得出来る通信の機能などを比較して同一画面にいくつか一体となって表示を与える混乱がマイナスの方が多いのではないかというバランス感覚になっていると思う。今後変っていく。総論としてはこんなところですよ。

(村井氏)

結論から言うと楽観的。EBU(European Broadcasters as Union)のプリンシプルでも放送用 TV の上にインターネットがオーバーレイしてしまうということはやめてくれみたいな意見が出ていると思う。これは一方では大事なときがある。地震があつてどういう報道を TV がになうのか、どういう役割をするのか。混在して隠れて見えないのはということはずい。自分が選んでみている中に放送を受信しているという認識がある限りそのための技術はあってしかるべき。EBU も但しユーザが何を選んでいてどういうサービスアグリーメントを結んでいるからだと思う。技術が進歩するとディスプレイは誰がコントロールするものという議

論がいずれ出てくる。ディスプレイに放送を出すというのは私と放送局のどういう約束に基づいているのか。これは洗練されてくる。そういう風に見せて見られなかった。これは誰が何を選ぶかの中で、高解像度のディスプレイをどう使うのかのバリエーションがあって、そういうことがどうやったら出来るだろうかということがまさにプラットフォームの役割。どんな知恵者、ビジネスを考えるやつが出てきてそこから変わるだろうな、これが1点。第2としてCMが全く新しい形を持つだろう。インターネットとTVの放送とが同期したときどれだけ広告効果のあることが出来ますか？これをプラットフォーム化したら、広告費は大きい中では、ベンチャースプリットをくすぐる話なので、ベンチャが参入できるプラットフォームになっていると面白いものいっぱい出来るのではないかと。わくわく感がある。技術的に関心あることは、時計である。時刻が同期するということが大事。放送は番組表が大事。その編成がかっこよい。何で映像おくらなければいけないのか。タイムラインと中身と時刻をデザインを提供してくれていると考えると帯域はいらないだろう。デバイス側は時刻同期ができる。マルチデバイスの中で同時性。ホラーの番組を見てある時刻に一斉に自宅の照明をOFFにする。こんなことができるのでは。正確な時刻同期のプロトコルはできていない。こういうマーケットができるかと相手に正確な時刻同期をお願いすることになる。全く新しい技術が必要となるモチベーションが働く。楽観的である。元橋さんにか

(元橋氏)

ジャーナリズム、コンテンツ、クリエイトに対して新しいテクノロジーやプラットフォームが出る中で私は既存の新聞社、放送局、ネットワークプロバイダの単純な保護になってはいけないと思っている。良質なコンテンツをクリエイトするところがサステナナブルにコンテンツを提供できる仕組み作りが必要。供給者サイドだけでなくユーザサイドも望む著作権、課金のルールを皆で決めること。再生産ができることが大事。

(村井氏)

皆で決めることもよく理解できるが。標準化の話とも合うが。全部のデバイスを操って何か新しい面白いものを作るためのプレイグラウンドを形成できるでしょうか。

(元橋氏)

やんなければいけない。ポテンシャルはある。望まれている。やないと埋没する。

(村井氏)

何でもありという環境なのでその知恵はどこから出てくるかという皆作ってよと言ったら出てくるのでは。

(伊藤氏)

TVはひとつにまとまってしまっている。いろいろ混ぜてしまっている。ジャーナリズムは民主主義の必要な柱の一つ。TVドラマと地震の報道と一緒に考えるのはおかしい。ジャーナリズムを救うのは国がお金を払うか、NHK化。コンテンツ、アメリカではドラマのTVは伸びている。CATVでお金を取っている。どうぞブラウザで見てください。iTune 変えないぞ。HBOの変なブラウザを使わないと見れない。その上にアプリを乗せる。ジョーゼルーカスなどはTVに移っている。地震などは別のセキュリティプロトコルで作っている。コンテンツ種類とビジネスモデルが違う。

私もニューヨークタイムスの社外取締役をやっているが、うちの競合は新聞社ではなく、CNNであったり、アルジャジーラであったりわけが分からない。いままで競合は競合でなくて全然違うところからきて、誰が仕切るか。プラットフォームをつくっているアップルやグーグルなのかコンテンツをにぎっている人なのか、国なのか、誰がプラットフォームを作るか。コンテンツによっても違っている。ジャーナリズムはどうしても生き延びさせないといけないから、これは国がお金を注入してもやらなければいけない。コンテンツは勝手に儲かりそう。一番難しいのが広告ビジネスで、すごく技術的に変化していて、気になることはフ

アイナンスマーケット。ファイナンスがアルゴリズムで変わる。データセンタがニューヨークに動いている。広告もどんどんプログラム化してきている。昔の勘、感性でできなくなっている。広告が頼れる時期がすごく変わってきている。

<プラットフォームのイノベーションでコンテンツは変わるか>

(会場から)

プラットフォームがイノベーションすると放送メディアにおいてコンテンツがどのように変わるか。期待も心配もある。ドラマも時間をとおして蓄積してきて成果となっている。プラットフォームが進化することによりコンテンツがどう変化し、蓄積されたアーカイブはどう変化するか。だんだん混乱すると思うのでどう考えますか。

(舟橋氏)

ローカル(地域、コミュニティ)とグローバルなコンテンツの2極化が進むと思う。プラットホームつながってくる。関心がある人間、日本全国またはその地域内など。どちらかでないと生き残れない領域があるのではないか。

(元橋氏)

答えは見えないが、リプレースされて新しくなるのではなく、付け加わっていくと考える。3D番組に係わった時、3Dと2Dの演出が違うことからディレクタどうして意見調整が大変だった。4:3から9:16の変化でも、俳優のステージング、カット割り、カット時間効果のもたらしかた等、演出がメディアにより変化する場合やスポーツ中継のように変わらないものもある。ユーザの意識、要望によると思う。全てが消えることではないと考えます。

(村井氏)

混乱するという事は大事な事ではないですかと言いたい。

(南氏)

放談的になりましたが、プラットフォームを考えると、標準化の話 横のつながり(通信・放送)の話、コンテンツの話、識別子と決済の話、混合送信の話など、ますます広げるためにフォーラム活動をしていく。村井先生まとめるとともにフォーラムについてもふれてください。

<まとめ>

(村井氏)

BAの中で議論の場を用意しておいて、今日出てきたものを含めて研究会として場を作って行きたい。貴重な話を軸に環境を作っていく。是非皆様のお知恵と参加していただきできることをやって行きたい。そういうことなんです。伊藤さんには相当借りた感がある。

(伊藤氏)

日本でこういうフォーラムの議論をしているのとアメリカの現地とシンクロしているのがよい。ハイビジョンでは出来上がってから持っていったのでうまく行かなかった。4k、8Kはうまく行っている。ガラバゴス等学んだ経験を活かし、ここで面白いことをやるならアメリカで似たような人を巻き込むとよい。そうすればアメリカもよくなる。アメリカにはベンチャが多い、ナイト財団のベンチャやCATVの人達など、アントレプレナがコンテンツやビジネスモデルなどグローバルで考えている。

(村井氏)

アメリカやヨーロッパも含め、課題を抱えている。課題は解くことで進むことが大事。世界でも課題だらけ、共有するようフォーラムを進めていきたいと思います。

(以上)